

2018年9月16日(日)第20回 明野子ども美術館の賢治祭 報告 須玉ふれあい館2F
明野総合会館工事中のため はじめての会場で行いました。

第一部 pm 4:30~5:20 観客参加型劇<みじかい木ペン> 衣装をつけてお話の世界へ

明野子ども美術館の賢治祭にむけて今年作られた曲の演奏のあと、朗読家永田京子さんの観客指導で劇のセリフを学んで、音楽家の指導で歌ったり、Nさんの指導で踊ったりして劇にそなえました。朗読家・音楽家・振付家の指導で、観客も衣装をつけ、歌い踊り、劇に参加しました。



ナレーター指導もていねいにしてくださいました。学校の場面。日直はみやざわけんじ！



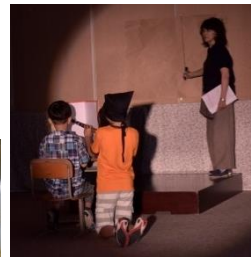
キッコは森でおじいさんから木ペンをもらう。



スルスルッとのびる木ペンを操作する黒子役。



タイミングよく楽しい鳥の役



休憩

<みじかい木ペン>にまつわるお菓子とお茶の提供



休憩中も、はじめてきた人も何度も来た人も、衣装をつけたり展示をみたり、和気あいあい。何度も衣装をかえて楽しんでいました。

第二部 pm 5:30~6:30 「歌とおどり 衣装でたのしもう明野子ども美術館の賢治祭20年」

音楽と歌 へんり未来さん・足立理恵さん・野呂瀬加奈さん



明野子ども美術館で作詞作曲された曲は20年間で123曲になりました

賢治を語ろう

- まっさきに自分から感想を言ってくれたはじめて参加したHさん。「たのしかった」
- 歌、おしばい、衣装、照明、ナレーション、お茶やお菓子などなどどれも思いがつかっておしゃれ。すてきな空間でした。(Oさん)
- ひとつひとつ丁寧に話しに向き合ったことが、心にしっかり残っているということ子どもを通してあらためて実感しました。(Mさん)
- 衣しょうをきてダンスをおどれて楽しかったです。(Nくん)



そのなかから18曲を選び、歌い踊りました。



三上満さんが大好きだった「ほろびのほのお」(2012年上演の「十力の金剛石」から)を歌って会のしめくりをしました。